

日本NGO連携無償資金協力 中間報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>ゴレーク地域の住民の間に、多くの病気は予防できるという意識が定着し、予防に必要な栄養・衛生改善策が実施される。</p> <p>達成状況：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農繁期(5月)や断食月ラマダン(6/18~7/16)期間をはさみ、ほぼ計画に沿ったペースで定期的な活動(井戸や資料室の管理)は実施されているものの、自主企画など新たな展開は後半期に期待される。 ・これまで当団体が実施してきた「母親教室」の次の段階として、女性たちが保健について学んだことを近所の家庭訪問で伝える「家族健康アクション」の活動が順調に進んでいる。個人の活動にとどめず地域保健員やメンバー間で協力しながらグループとして地域の保健状況を改善していくことがより意識されてきた。
(2) 事業内容	(ア) 保健委員会に焦点を置いた地域の自主的な保健の取り組み
	【保健委員会の活動が地域に定着するための支援】
	<ul style="list-style-type: none"> ・クズカシュコート、ゴレーク、フズバーグ村にて井戸の衛生管理(塩素消毒)とその報告が行われている。保健委員会メンバーは消毒に必要な塩素を村人に配布するだけでなく、実際に井戸周りの環境も確認するためにいくつかの井戸を訪れた。 ・クズカシュコートとゴレーク村で共同資料室が運営されている。資料室の活用法について外部講師をまねき研修を実施した。 <p>【保健委員会の運営能力強化の支援】(後半期に予定。)</p>
	(イ) 地域における健康教育
	【家族健康アクショングループ(女性グループ)支援】
	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが学ぶ月次の保健教室の開催と、その後のメンバーによる近隣の家庭訪問活動が実施された。「栄養」「ワクチン接種」「下痢」「結核」をテーマとした。保健省が作成した教材の全トピックを学び終えたので、次の段階に向けて、各テーマを統合した総合的な家庭訪問用のチェックシートを作成した。 <p>【男性住民への健康教育】(後半期に予定。)</p> <p>【学校での健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の進め方を企画・実行するための学校保健協議会の設置について話し合いを開始した。協議会にはボランティアの生徒をメンバーに含めるよう教育局からの助言があったため、夏休み(6月~8月)後、新学期に入ってからメンバーの選出を行う。この間、団体内で協議会の役割や責任についての提案をまとめた。 ・健康壁新聞活動を毎月実施し、生徒が病気予防や健康についてテーマを選び作文したものを担当教員が編集し、壁に掲示した。また保健に関連する書籍を学校の図書館に寄贈した。
(ウ) 診療所運営と地域保健との連携	
【診療所運営と地域保健との連携支援】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健員(CHW)の会合は定期的に行われているが、保健委員会との合同会議は実現していない。 ・診療所で把握している村ごとの疾患状況を各村の保健委員会に共有している。下痢とマラリアが多発していることから、対策を講じる議論がなされた。(後半にマラリア対策キャンペーン実施予定) ・診療所のカルテ記録から、受診回数が極めて多い家族を選び、家庭訪問と保健指導を実施した。 <p>【病気予防の促進と、診療所の規模縮小】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療所の待ち時間と個別診療の際の患者への健康教育を日々行い、予防の大切さを伝えた。抗生物質の過剰な使用をできるだけ抑えるよう職員間でも意識を高めた。 	
(3) 達成された効果	(ア) 保健委員会に焦点を置いた地域の自主的な保健の取り組み

	<p>成果①【保健委員会の活動が地域に定着する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、村人との協力でゴレーク村では53基、クズカシュコート村では79基の井戸の塩素消毒が行われ、後者の村では保健委員会メンバーがのべ66基の井戸とその周辺の衛生環境の確認を行った。フズバーグ村でも井戸管理が始まっているがそれを報告するレポートはまだ提出されていない。 ・クズカシュコート村とゴレーク村に設置した資料室の管理報告が提出されているが、後者では特に地域住民の理解・活用があまり進んでおらず報告の内容も不十分である。図書館の活用法を学ぶ研修には保健委員会メンバー、学校の図書館担当合わせて15名が参加した。 ・診療所から地域の疾患状況は共有されているが、この期間中に対策としての自主企画は未実施。後半期に向けてマラリア対策キャンペーンが計画されている。 <p>成果②【保健委員会の運営能力が強化される】(後半期に予定。)</p> <p>(イ) 地域における健康教育</p> <p>成果①【家族健康アクショングループ(FHAG)により病気予防の重要性が地域に伝わる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治安が不安定な2地域を除く14の拠点で15人のFHAGメンバーが月例会に参加した。各回、ほぼ欠席者はなく(平均出席率93%)、各メンバーが家庭訪問で使用するチェックシートの確認を行った。月次報告も漏れなく提出された。(2月~6月分) <p>成果③【学校での健康教育を効果的に実施する主体が形成され、健康への意識が高まる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4校で教員保健グループ結成の話し合いが始まり、メンバーを選出中。 ・6校で生徒が書いた作文を編集したリーフレットを作成中。新学期(9月以降)に配布を予定。 ・応急処置研修は後半期に実施予定。健康壁新聞用に生徒から提出された作文のうち、編集され掲示された作文は144。 <p>(ウ) 診療所運営と地域保健との連携</p> <p>成果①【診療所運営と地域保健との連携が強化される】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会は会議を10回(GK3, KK3, HB2, KC1, BG1)、地域保健員(CHW)は男女合計7回行われた。両者の連携はまだ弱く、保健委員会のメンバーがCHWの会議に個別に参加する例は見られたが、正式な合同会合は開かれていない。 ・受診回数が極めて多い7家族の家庭訪問(昨年度)と保健指導の2回目の訪問(今年度)を実施し、改善がみられた。今年度も別の7家族が選ばれ、1回目の訪問を実施した。 <p>成果②【住民の健康管理意識・知識が向上し、患者の診療回数・薬の処方量が減る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗生物質の割合は、4月は診療所・簡易診療所の月平均で、全体で処方する薬のうちの4割前後、7月時点では3割前後となっている。 ・マラリアと下痢が流行しており、患者の絶対数は減少していない。理由の一つとして考えられるのが、パキスタンからの帰還者が増加しており、当団体の健康教育の経験がない人々やマラリア対策に有効な蚊帳を持っていない家庭も多いこと。
(4) 今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の取り組みは定期的な活動が継続しているものの、当団体からの提案を待たずに率先して病気予防の活動を提案・企画・実施するまでには至っていない。後半期では他の村人に協力を呼びかけてキャンペーンなどを行い、村人を代表して病気予防に取り組む保健委員会としての意識と自信を強めていく。 ・ヘルスポストを拠点とした男性村人対象の健康教育と学校健康教育の一環で作成するリーフレット制作は長年の構想期間を経て初の試み。前半期で準備を進めたのでスムーズに実施できる見込み。 ・治安の関係で日本人職員が現地に入れず、現地職員や村の協力者たちと直接協議や交流・モニタリングが見込めないことは、活動内容の改善や双方のモチベーション維持の困難となる。第三国出張や招聘の機会を最大限に活用してコミュニケーションを深めていく。